

## 平成28年度群馬県立太田フレックス高等学校第2回学校評議員会及び学校関係者評価委員会（概要）

実施日時：平成29年1月24日（火）14:00～16:00

出席者

〔学校評議員・学校関係者評価委員〕（敬称略）

中野勇治、久保田友伊、橋本まさ子、石井真由美、須藤明彦、奥田広

議事等

### 1 開会

### 2 校長挨拶及び学校概要説明（校長）

○できる限り振幅の少ない学校運営を図りたい。

○生徒動向について

- ・定時制の出席率は過去の年度と比較して向上している。また、退学者数も減っている。
- ・通信制のスクーリング出席率は前期は良好であったが、後期は昨年度と比較して下がった。体育行事や校外学習の出席状況は昨年度より良好であった。
- ・特別指導も減少している。
- ・保健室の利用状況も、本当に具合の悪い子が訪れるという状況になっている。
- ・外国にルーツを持つ生徒も2割程度いる。言葉の壁の厳しさはある。

○広報活動の活発化について

- ・中学校生徒・保護者の個別学校訪問も積極的に受け入れている。
- ・中学校の先生向け説明会…一定の効果があったと考えている。
- ・学校長による中学校訪問（35校で実施）…このような機会も必要であると考えている。
- ・学校説明会…より効果的なものを工夫したい。
- ・先進校視察として本校へ来校が増加…福岡、広島、兵庫、栃木、青森各県から

○授業改善の取組について

- ・生徒の目線にたち、生徒の変容を見極めるものになっている。
- ・授業の工夫を各教科、各教員で意識しようとする動きもある。
- ・授業参観、研修、視察等が地道だが効果がある。

○行事

- ・フレックス発表会ではPTAの協力（とん汁600人分）もありがたかった。
- ・チャレンジウォークの完歩率は、過去最高となった。
- ・部活動では、運動部が全国大会に5つの部で出場、演劇部・吹奏楽部も熱心に活動している。

### 3 各部状況説明

I・II部、III部、通信制のそれぞれから資料に基づいて、進路状況・学校生活状況等を説明  
<以下は各部の特徴的な項目>

○I・II部

- ・I部では進学決定者が増加、II部では就職決定者が増加した。
- ・専門学校への進学者が増えている。就職は主に県内である。
- ・中学生の個別見学は29名あった。実際に授業を見学すると、「落ち着いている、しっかりと高校の内容を学んでいる」との印象をもってもらえる。
- ・中学校の先生向け説明会では14校から来校があった。

○III部

- ・出席率は概ね85%で、各担任からのきめ細かな指導が効果を上げていと捉えている。

○通信制

- ・進学、就職は例年並み。通信制ではすでにフルタイムで働いている者や主婦等が少なからずいる。
- ・通信制では現在、部活動をしている者はいない。生活体験発表で県大会・関東大会に出場している。

### 4 学校行事説明

I・II部、III部、通信制のそれぞれから資料に基づいて、主な学校行事とその状況を説明

○I・II部

- ・本校独自の行事としては、チャレンジウォーク、フレックス発表会を実施している。フレック

ス発表会は、今年度からゼミ発表会を中心に衣替えをした。

○Ⅲ部

- ・レクリエーション大会は、今年度は生徒の発案でみんなが楽しめる内容となった。生徒の自主性が育ってきており嬉しく感じている。

○通信制

- ・校外学習として、県立館林美術館を見学…生徒にとっては参加しやすかったようである。

5 学校評価の説明

学校評価一覧表①及び生徒アンケート、保護者アンケート、授業アンケートとそれらの集計結果を用いて、代表的な項目について説明

○定時制

- ・学校設定科目では、来年度はさらに「ことばと生活」を設定した。
- ・少人数制授業は、少人数が生徒の発言する機会の増加、教師の見とりの充実、アクティブラーニングの視点での授業実践等に反映していると考えている。
- ・残念ながらいじめと捉えられる事案は数件見られた。SNSを介在（冷やかしや誹謗中傷等）しているケースが多い。SNSの利用法については継続的に指導していきたい。

○通信制

- ・スクーリングは年16回実施している。この回数は、スクーリングとしての必要回数の2倍である。規定回数が終わっても出てきたいと生徒に感じさせる内容にしたい。そのためにも、スクーリングとレポート課題の関連づけをより強くしたい。
- ・生徒理解を深めるために、スクーリング前に情報交換、スクーリング当日の放課後も生徒の情報共有を行っている。
- ・「健康保健調査」、「困っていることについてのアンケート」で生徒の抱える問題の吸い上げと職員間の情報共有を図っている。
- ・フレックス通信の内容の充実・精選等を通じて、生徒への情報発信に引き続き努めたい。

6 意見拝受（学校評議員・学校関係者評価委員）

○多くの項目で目標値を上回っている。上手く学校運営できていると考える。

○目標値に達成したら、「生徒・学校はこのように変容する。」という具体性がさらに欲しい。

○「言葉としてのコミュニケーション能力」と「相手の気持ちを推し量る力」を高めて欲しい。

生徒と接する時間やその密度は、太田フレックス高校ならではのことができると思う。

○地域清掃活動は素晴らしい活動である。今後も続けて欲しい。

○フレックス発表会を見学した。生徒の対応が丁寧であり、幅広い世代に対応していたと思う。

○生徒が楽しく学校生活を送っていることは理解できたが、卒業後の生徒と学校の関連性はどのようになっているか。

（回答）卒業後も顔を見せて、職場や学校の様子を聞かせ、悩みをはき出したりしている生徒もいる。職員室は校内的にも好立地であり、入りやすい職員室を心懸けていきたい。

○退学の理由で多いのは何か。

（回答）不登校経験者は少なからずおり、必修科目での出席時数不足が理由としては多い。授業中に教科指導のみならず、生徒指導や教育相談までもできる体制をさらに作っていきたい。

○チャレンジウォークの際にその様子を見ていた。挨拶をすると挨拶を返すという基本であるが大切な事がしっかりできていた。大切な行事だと思う。

○特色ある学校づくりに対しても肯定的に受けとめられていると思う。それも説明がしっかりとなされているからだろう。

○学校評価の数値はあくまでも参考である。今後にどのような手立てを取るかが大切であり、それは全職員の共通理解がないと進まない。

○不登校生徒の親の立場では、最初は子どもの行動に理解ができない。しかし、見守りをする中で、やっと本人の気持ちがわかり始める。太田フレックス高校は様々な状況の生徒を認め、見守ってくれる学校であると考えている。

7 意見拝受を受けて（校長）

○本校に赴任して1年が経ち、もっと前に進まなければならないと感じている。今後も様々な角度からご指導願いたい。

8 閉会